

一月十七日

拝復

（雪が私の方にはまだ積もり、お返事遅くて済みませんでした。
春日井市へ来て、こんなにも積もったことは始めてでした。

お便り嬉しく拝見しました。

藤井さんは若いですね。山登りは50代から60代がいちばん山に慣れて、気力も落ち水やる気の出る斗合です。

山が好きで山に登ることに生き甲斐を感じる人は幸せだと思います。

山は広大で奥深く、そこに育った樹木・植物と動物等、また四季の美しく咲く草花の魅力は、登る人の心を慰め、気力を盛り上げてくれます。

藤井さんは熱心な方で、近藤さんのログハウスで泊り翌々御池岳をコケルミ谷から登ったことを思い出しました。

そう言えば登山道ではない急斜面の危険な夕ヶ谷の西側の下りでザイルまで用意し、安全に下山したことはよく憶えてあります。ホウ穴や水場を廻る車道に降りた時はホッとしていました。

あの時ザイルを張って下さったのが藤井さんでしたのですね。用意周という方がいるものと、驚きました。

あんなコースを歩く人は一般にはありませんが、近藤さんのように池も探険する人が、鈴鹿の山のベテランである山田明男さんぐらいです。

私は

鈴鹿の山のコース図を画いた山口兄弟の地図で、炭燐道として昔の人が歩いたコースを、忠実に探し求めこの探険をして、誰でも少し勇気のある方なら、歩ける道も地図に書いてあるもので、鈴鹿の山は70回ほど出掛けました。

その記録をもとに、分かりやすいコース図として書き、山に行く人のために、私の機械設計の技術と根拠を利用して作成したものです。

ですから山に行く人に広く利用して頂ければ心から嬉しく思うだけで、著作権とかは全く考えてはいませんので、自由にコピーして利用してもう之は有難いです。

コピー代のことですが、藤井さんのように熱心な方には無料で全部差し上げましたから、自由に御利用して下さい。心苦しいようでしたら、お酒の一斗でも送って頂ければいいかと思っております。

今まで、私のコース圖を差し上げて、お金を頂いたことはありません。いつもサークルとして無料で送るありますので、何卒御心配は入りません。

山歩きは本当に楽しく、私は登山前には歩く時間を、コース圖によって計算し、それに休憩時間と昼食時間を30分を考えて、出来ただけ速く歩いて一周するようにしております。(私はコースタイムの合計時間で休憩も昼食も食べ歩きをします)

マイカーで行きませんの、縦走登山が多く、気楽に歩いております。仲間と行く時も、気の合った山へと行くようにしてあり、山の話をお互いにしながら行くのは楽しく、下山後はバス停や電車の駅で、ビールやお酒を買って、駅や電車の中で

飲みながら、当分の山のことを話しながら帰るの、いちばん楽しいです。時々お会っては、以前に登った山の思い出を話し合うのも山に行く者にとっては嬉しく楽しいものです。

藤井さんも、気の合う山を見つけて、歩かふると良いかと思っております。

常滑市は、名古屋市に近く便利な所ですから、鈴鹿の他に、三河の山、信州南部の山、岐阜の南部と、地アハハ、中央アハハ、南アハハ、八ヶ岳など、たくさん範囲を広げて行く方も多そうです。日帰りで遠く山に行けますね。

マイカーで行けば、時間もなく、スムーズに登山ができ、神奈川に歩いて帰ることができますね。ただマイカーの駐車場まで戻らなくてはなりませんのが、山によつては十分に歩いて歩かできないこともありますね。

今は、マイカーで行く方が多々で、電車やバスは休むのも山に登る人は少なくなりました。

昭和40年代から60年代までは、みな近鉄名古屋駅登脚の急行で、桑名・富田・四日市駅からそれに乗換えて、いそぐな山に登り、顔見知りも多く、電車の中にも山の話が楽しいものでした。今ではマイカーが多くなり、電車で行く人は少なくなりましたね。ちよと残念ですが、それも時代の流れです。ですから昔はコース図を沢山持参し、山に行く人に差し上げたものです。

私の地図で山に入ると登山口を確認して登山し、山に入っても道に迷うことなく下山されて、無事終えたことをお褒めして頂いたことは多くありました。それは嬉しいことでしたね。山はあまの良いい日に行くことが大切で、雨の降るような日は中止するに限りです。ですからいつも天気予報と昔からの地名などの空模様、雲の流れ方向、厚さなどを研究して行けば、雨降りの登山はありませぬね。私は雨に合ったことは一度もありません。

常滑から三重県の四日市方面の空模様はよく見えますので、お掛けに見れば、雨のことはすぐに分かりますね。私は山では縄おに転ばないことをいつも心掛けてあり、足をあらず地点は必ず確認して歩いてあります。

連く歩いていても、瞬間々々に見定めて歩いています。登り降りも定いたり、岩に頭をぶつけたり、川を渡す際も岩の生えた石には十分注意して、避けて跳んで渡ります。

とにかくバウンズ良く要量よく歩くことが山には必要です。四方に気を配り、足元の注意し、ケガや事故を起こせば二度と山登りが出来ぬことを考えて、今までやって来たもの、藤井さんにも注意力をモットーにして、山を本長く歩き、回って下さい。年計なことまで書いて済みませぬでした。ではおええで頑張ってください。私筆にて、草々

平成二十三年一月二十日

奥村文信

藤井 様

山も今ではマイカー時代です。

鈴鹿の山はすべてコピーしたもので、登山口を確認してから登って下さい。

その他、岐阜・信州南部・愛知県の山などは、みなさんがよく行かれる山もコピーしましたので、マイカーなら気軽に山を楽しまさずかできると思い、コピーしましたので利用して下さい。単独行でコツ／＼静かに登り詰めて、山頂に到達した時の欣びも嬉しいものです。

三河の山は杉・松の植林が多く、熊はいまそこのあたりです。信州の山は九月・十月は注意して下さい。

鈴鹿の山は安全ですが、大りに歩き回して下さい。